



「SAYAMA みえない手錠をはずすまで」



50年間、殺人犯というレッテルを背負いながら、泣き 笑い 怒り 日々を“凜”と生き抜く夫婦の物語を描いた『SAYAMA みえない手錠をはずすまで』の完成記念上映会（主催：SAYAMA山梨上映実行委員会）を、4月6日（日）山梨県立文学館講堂で見てきた。

当日は400人近い方が上映に訪れており、これは先月、新聞各紙でも報道された、静岡地方裁判所の袴田事件の決定も大きく影響していると思われ、この決定により、この狭山事件も再審へ弾みがつけばよいと思う。

狭山事件とは、被差別部落出身であることから、差別による偏見により石川さんが犠牲となった事件であり、獄中32年、仮出獄後18年の50年無実を訴えつづけているものである。

映画のなかでは、石川さんの事件に対する怒り、悲しみの日々を仮出獄後結婚した奥さんの明るさで、二人三脚で凜と生きている姿が映し出されていた。

上映後に行われた、トークイベントには、石川一雄夫妻、金聖雄監督、鎌田慧（ルポライター）、菅谷利和（足利事件冤罪被害者）らによる差別による現状や当時の裁判のあり方など、このような事件を経験した者でしか語ることのできないことを数多く聞くことができ、この種の事件の大きさを改めて肌で感じることができ、また、改めて部落問題の根の深さを感じた。

現在でも、結婚を妨げられたり、就職で不利な扱いを受けたりするなどの差別の相談を数多く受ける。最近では、ネットの普及により、人権を無視した差別的な書き込みや同和地区の地名やその地区に多い姓などを面白半分に書き込むなど後を絶ちません。

山梨ブランチでは、このような事例が少しでもなくなり、一人ひとりが、人権を尊重することの重要性を認識し、相手の気持ちを考えることや、思いやる心が大切であることを、一人ひとりの心に訴え、これからも、すべての人々が個人として尊重され、平和で豊かな社会の実現のため、今年度もパネル展、講演会等人権の大切さを理解していただく事業を展開していく、積極的に人権施策の推進に取組んでいくので、今後とも一層のご支援とご協力をお願いします。

国連NGO横浜国際人権センター・山梨ブランチ

代表 横山 隆史（全日本同和会山梨県連合会会長）

〒400-0831 甲府市上町 601-4 甲府市環境センター内 なでしこ工房 1階 Tel 055-243-8563